

第6学年 体育科学習指導案

令和5年11月9日(木)5校時
 大浜小学校6年1組 計25名
 授業者 金城一機(体育CO)
 真玉橋初音(担任)

1 体育科指導コーディネーター 研究テーマ

主体的に運動を楽しむ児童の育成
 ～「協働的な学び」を土台とした体育授業の工夫改善を通して～

【年間指導計画 6学年 11月計画 B 器械運動 跳び箱運動】

2 単元名 跳び箱運動(7時間)

3 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
跳び箱運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。	自己の能力に適した課題の会ける仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

4 運動の特性について

(1) 一般的特性

- 跳び箱運動は、助走－踏み切り－第1空中局面－着手－第2空中局面－着地の動作を行う運動である。
- 跳び箱運動は、様々な技に挑戦し、達成したときに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

(2) 児童から見た特性

- 自分に合った技(切り返し系、回転系)を選び、挑戦することによって楽しむ運動である。
- 「回る」「体を支える」「逆さまになる」などの非日常の動きから成り立ち、技ができれば楽しさを感じることができる運動である。
- 「できる」「できない」がはっきりとわかるので、技が成功したときに達成感を味わいやすい運動である。
- 技ができなければつまらないと感じやすい運動である。
- 跳び越えたり、跳び箱の上で回転したりするなどの非日常の動きに対して、恐怖心を感じる子が見られる運動である。

5 単元について

(1) 教材観

学習指導要領解説体育編において、跳び箱運動では、その行い方を理解するとともに、自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすること。と明記されている。

また、技の例示や運動を苦手としている児童への配慮の例が以下のように挙げられている。

例示	切り返し系 切り返し跳びグループ発展技の例示	回転系 回転跳びグループ発展技の例示
	○かかえ込み跳び(さらなる発展技)	○伸膝台上前転 ○頭はね跳び(さらなる発展技)

	展技：屈伸跳び) 助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえこんで跳びこし着地すること。	助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地すること。	前方屈腕倒立回転跳び) 伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、両手で支えながら頭頂部をつき、尻が頭を超えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながら回転すること。
運動が苦手な児童への配慮の例	かかえ込み跳びが苦手な児童には、マットを数枚重ねた場を設置して、手を着きやすくしたり、跳び越しやすくしたり、体育館のステージに向かって跳び乗ったりして、跳び越しやすい場で踏み切り-着手-着地までの動きが身につくようにするなどの配慮をする。	伸膝台上前転が苦手な児童には、マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱で腰を上げたり、速さのある前転をしたりして、膝を伸ばして回転する動きが身につくようにするなどの配慮をする。	頭はね跳びが苦手な児童には、マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱、ステージを利用して体を反らせてブリッジをしたり、場でつくった段差と補助を利用して頭跳ね起きを行ったりしながら、体を反らしてはねたり、手で押したりする動きが身につくようにするなどの配慮をする。

これらを踏まえた上で、個々の体格や運動経験などが異なる児童が劣等感を感じることなく、自分で挑戦したい技を選択したり、見つけた課題を克服したりするための場の選択等の自己選択・自己決定の場を意図して設定していくようにする。

(2) 児童の実態について 【6年1組 22名回答（10月24日実施）】

児童は、毎年器械運動の跳び箱運動を学習しており、4年時からは「自己選択・自己決定」を中心とした授業づくりの中で、自分の力に合わせて技を選択したり、練習する場を選択する活動を多めに取り入れている。跳び箱運動には比較的好意的に取り組む児童が多い感覚はあるが、運動の特性上、どうしても「できる・できない」が明確になる反面、苦手な児童もいることが予想されるため、事前アンケートを実施し、実態把握を行った。

【1】 体育の授業は好きですか??

● とても好き	10
● まあまあ好き	8
● 少しきらい	2
● きらい	2



とても好き・好きの主な理由	少しきらい・きらいの主な理由
☐ 体を動かすことが好きだから ☐ できないことができるようになるから ☐ 運動をすると気持ち良いから ☐ いろいろな運動をすることができるから	☐ 汗をかくのがいやだから ☐ 運動に自信がないから ☐ 恥ずかしいから

【2】 とび箱運動は楽しみですか?

● とても楽しみ	7
● 楽しみ	3
● あまり楽しみではない	5
● 楽しみではない	7



とても楽しみ・楽しみの主な理由	あまり楽しみではない・楽しみではないの主な理由
○技ができるようになるのが楽しいから ○とび箱が好きだから ○高いとび箱を跳べるから	○けがをしそうで怖い ○技がなかなかできないから ○普段しない運動だから、久しぶりでこわい ○自信がないからこわい

【3】とび箱運動であなたががんばりたいことは何ですか?? (自由記述)

- ・トラウマがあってできないから、最初は普通にとぶこと
- ・自分の目標の段をとべるようにしたい
- ・何かができるようにしたい
- ・もっと難しい技をできるようにになりたい
- ・かかえ込み跳びができるようになりたい
- ・今までできなかった技をできるようにするために、少しでも前向きに頑張りたい
- ・高いとび箱でいろいろな技をできるように工夫しながら頑張りたい
- ・技をもって覚えてできるようにになりたい。とび箱への恐怖心を無くしたい。
- ・いろいろな技をできるようにになる
- ・台上前転
- ・とび箱が跳べるようになったり、技ができるようになりたい
- ・今できない技をいっぱい練習してできるようにになりたい。
- ・自分の目標の段を跳べるように頑張りたい
- ・ケガをしたときのトラウマを克服したい
- ・台上前転をもう一回できるようにになりたい。昔、台上前転をして落ちたことがあるからトラウマになりました。とび箱が苦手、きらいな理由もこのことが原因です。
- ・技が下手でもいいから、いろいろな技を練習したい。
- ・技をきれいにやること
- ・大きなとび箱をとべるようになりたい。いろいろな技ができるようになりたい。
- ・8段跳ぶこと

【1】【2】より、一定数の「体育嫌い・とび箱を楽しみではない」児童がいることがわかる。またその理由も、ケガを心配する児童や、過去にけがをした経験があることで苦手意識をもっている児童がいることも分かった。安全面への配慮や教師による補助などにより、子供たちが安心して授業に参加することができるようになりたい。

【3】より、「高さ」を追求しようとする児童が多数いることも分かったので、オリエンテーションや場の設定などにより、高さよりも美しさなどを追求することの大切さを適時声かけていきたいと思う。

6 指導にあたって

(1) 指導観

今年度の研究テーマ「主体的に運動を楽しむ児童の育成～「協働的な学び」を土台とした体育授業の工夫改善を通して～」を受け、自分なりの学習課題（個別最適な学び）をクリアするための場の設定やICTの活用を図ることを土台に、児童自身が学びを自分ごととして捉え必要に応じて多様な他者と協働しながらよりよい学びを生み出していくことを通して、主体的に運動を楽しむ児童の育成を目指す。

跳び箱運動では、「怪我をしそう」「できないと恥ずかしい」などを理由に、苦手（嫌い）と感じていることが課題となる。そこで本単元では、安全面への配慮のためスモールステップを選択しやすく、セーフテーマットを活用した場の設定や、教師による補助、跳び箱の段数への制限などを設ける。

① オリエンテーションにおける単元を見通す安心

単元のゴールは「いろいろな技に挑戦し、安定した跳び方ができるようになる」とする。そのためには見通しを持ちながら、自分の取り組みたい技を決めたり、安定した跳び方が身につくよう技のポイントを押さえ、自己の跳び方との比較や仲間からのアドバイスをもらったりする時間を意図的に設定することを確認する。

また、オリエンテーションでは、跳び箱運動で多く見られる「高さへの追求」ではなく、「技の完成度や美

しさ」に重点を置き、踏切から着地までの質をあげていくことの重要性についても確認する。

こんな姿が見られるといいな。			とび箱の高さ
○いろいろな技の 行い方が分かる ○自分の力に 合った基本的な 技ができる	○自分の課題 を見つける ○課題解決の 場を選ぶ ○考えたことを 伝える	○進んで ○約束を守る ○助け合う ○認めよう ○安全第一	最高 6 段まで 高さではなく 技の質を高めよう ↓ (安定して、できばえ、美しさ)

② 自己選択・自己決定の機会の充実

技の例示を掲示やタブレット端末で確認できるようにし、どの技に挑戦するかは自分自身で選択し、決めることを繰り返し指導する。

③ 苦手な子が安心してできる場の工夫

場の設定については、「コの字型とび箱指導法(三好真史)」を取り入れ、スモールステップで場を選択することができ、最初に技にチャレンジする際には、教師による補助を行うことで安心して技に取り組むことができる配慮をする。

また、マットはもちろん、セーフティーマットなどの児童が安心して跳ぶことができる用具・備品についても積極的に活用し、失敗＝ケガにつながることをないようにする。

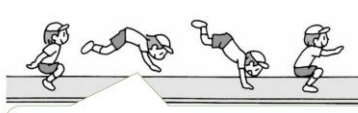
(2) 本単元における指導の工夫および手立て等

① 主体的な学びを育むための工夫

A: 主運動につながる基礎感覚運動の充実

児童の実態把握や、とび箱運動の楽しさを味わうための最低限の感覚や運動技能を身に着けるために毎時間の導入で、主運動につながる基礎感覚運動を取り入れる。

本単元では、基礎感覚運動を8つ取り上げ、30秒取り組み、10秒で移動するといった形式で、すべての基礎感覚に単元前半はまんべんなく取り組む。単元後半からは、自己の課題や必要だと感じる基礎感覚運動を自分で選択し、3分間程度取り組むようにする。児童の実態によっては、意図的に取り組ませたい基礎感覚運動を取り入れる場合もある。

とび箱基礎感覚運動(トントン腰あげ)  両足をつかって <u>トン(かるく)</u> <u>トン(かるく)</u> ドン(強く)のリズムで 大きく腰をあげてみよう。 ふみきりの力強さに つながるよ!!	とび箱基礎感覚運動(フープインステップ)  1(かた足) 2(かた足) ドン(両足で強く)の リズムでふみきりの パワーアップだ!!	とび箱基礎感覚運動(またぎごし)  [手を着いてまたぎ乗り・下り] 手をつかって 体を前へ移動させろ。 体を支える力がつくことで とび箱の動きが良くなるよ
とび箱基礎感覚運動(とびのりとびおり)  手をついて跳び箱の上に 足のうらをつけて着地だ。 手をついた場所より 足が前にくるとすごいぞ!! 手をついた場所の近くに 足をもってこよう。	とび箱基礎感覚運動(ぶたいのりおり)  ぶたいにとびのりつてみよう 手をついた場所より前に 足がつけるかなー? ジャンプや前転、うさぎとび などでおてみよう。 ビタッと着地(3秒止まる) を目指そう!!	とび箱基礎感覚運動(平均台川とび)  平均台に手を着いて、 両足をそろえて川とびをし たり、片足ずつとびこしたり してもいいね。 うまくなってきたらリズムよ くつとびこえてみよう
とび箱基礎感覚運動(うさぎとび)  手⇒足⇒手⇒足のリズムでうさぎとびだ。 手と手の間に足が通るようにチャレンジ。 うまくなってきたら、なるべく少ない回数でゴールまでいこう。	とび箱基礎感覚運動(足ひらきうさぎとび)  うさぎとびの足をひらいた形だ!! 大きく足をひらくことでかきやく跳びがうまくなるぞ!!	

イ:技の一覧を掲示

一人ひとりの実態に合わせ、必要な情報を必要ときに確認することができるために、紙媒体による掲示物とともにタブレット端末への配布も行う。技のポイントを理解した上で技に取り組むことができるので、安全への配慮に対しても期待することができる。

ウ:運動場面に応じた言葉がけ・発問の工夫

児童自身に考えさせる場面と、安全を担保するために技能を身に付けさせる場面とを分け、必要に応じて言葉がけや発問を工夫する。教師が一方向的に教えるスタンスではなく、子どもたちの困り感や成長したことに応じた声掛けができるようにしていくことで、育ちの実感を味わうことが期待できる。

※『小学校体育器械運動－達人教師への道－』編著藤田雅文・湯口雅史 参照

全般	(例:目線・手のつく場所・足の上げ方などの視点を与えて) ・〇〇を見ていいところを見つけてね。 ・〇〇跳びで手をつくところは手前につくべきですか?奥につくべきですか?
助走	・どちらの足でスタートしたらタイミングよく踏み切れるかな? ・タタタタッって走るとリズムよく跳べるね。
踏み切り	・足をそろえて、バンッと蹴ってね。
着手	・跳び箱のどこに手を着いたらいいかな? ・腕の力でジャンプするよ。 ・跳び箱をグイッと後ろに押してね。 ・跳び箱をドーンと突き放してね。
着地	・グッと踏ん張って。 ・動かないようにピタッと着地してみよう。
開脚とび	・跳び箱の前の方に手を伸ばしてね。 ・足は大きなパーだよ。
開脚伸身跳び	・跳び箱をドーンと突き放してね。 ・両手を広げて大の字のポーズをとってみよう。
かかえ込み跳び	・足の指を前に向けて跳んでみよう。 ・怖かったら跳び箱の上でしゃがんでみよう。
台上前転	・バンッと蹴ってお尻(腰)を高く上げよう。 ・手の少し前に頭の後ろを付けてから回ってみよう。 ・「前へならえ」のポーズで着地しよう。
伸膝台上前転	・台上前転とどこが違うかな? ・足をピンと伸ばせるかな?
首はね跳び	・「く」の字から「へ」の字になって跳ぶんだよ。 ・跳び箱を頭の後ろへ押して、バンザイしよう。
屈腕はね跳び	・助走の距離を少し長くして、スピードをあげてみよう ・腰が跳び箱の前に傾いたら跳ねるんだよ

②対話的な学びの育むための工夫

ア:ICT 機器の活用

タブレット活用のメリットとして、児童の学ぶ意欲の向上がある。そのメリットを最大限に活用するために、タブレットの積極的な活用を図る。

- ・自分自身の姿を振り返り、良さや課題を確認する
- ・見本の動画を基に、技のポイントや、自分の姿との比較を行う
- ・ふりかえりの一括管理を基に、児童の困り感やノブを把握する

③深い学びを育むための工夫

ア:キラリタイム

キラリタイムでは、全員で友達の試技をみて、良いところや気付いたことを共有することで動きのポイントやコツを一般化したり、友達へのいい声かけをしている子や、準備片付けて率先している子などを紹介したりする。キラリタイムは、理解の三段階(白旗和也)として、試技などを見ることで言葉からのイメージを持ち、

技のポイントや自分との違いに気づく、そしてそれを実際にやってみることに重点を置いている。「わかる→気づき→できる」を繰り返し設定することで、実感を伴った理解につなげていきたい。

特に本単元では、運動を苦手としている児童を中心に観察し、その子の良さや頑張りを認め価値づけていきたい。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① とび箱運動行い方について言ったり書いたりしている。 【詳しく】 ② 自己の能力に適した切り返し系の基本的な技を安定して行うことができる。 【発展技】 ③ 自己の能力に適した回転系の基本的な技を安定して行うことができる。 【発展技】	① 自己の課題を見つけしている。 【仲間へのアドバイス】 ② 自己に適した課題を設定し、解決のための活動を選んでいる。 【具体的な理由をもとに】 ③ 課題解決のために自己や仲間が考えたことを仲間に伝えている。 【具体的に】	① とび箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ② 約束を守り、跳び箱の準備や片付けなどで、役割を果たそうとしている。 【仲間を助ける】

()内の文言は「十分満足できる姿」

8 単元の指導と評価の計画

時	ねらい(◎)・学習活動(●)	評価規準 ・指導に活かす評価 ○記録に残す評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	◎単元の目標と学習のながれを確認しよう。 ●オリエンテーション ●基礎感覚運動			・跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている
2	◎開脚跳び系の技にチャレンジしよう ●開脚跳びの技のポイントを確認してチャレンジ ●発展技にチャレンジ	・とび箱運動行い方について言ったり書いたりしている。		
3	◎かかえこみ系の技にチャレンジしよう ●かかえこみの技のポイントを確認してチャレンジ ●発展技にチャレンジ		・自己の課題を見つけしている	
4	◎台上前転の技にチャレンジしよう ●台上前転の技のポイントを確認してチャレンジ ●発展技にチャレンジ	・自己の能力に適した回転系の基本的な技を安定して行うことができる。		・約束を守り、安全に気をつけている。
5	◎難しい技にチャレンジしよう ●発展技にチャレンジしよう		・自己に適した課題を設定し、解決のための活動を選んでいる	
6	◎自分に合った技(発展技)にチャレンジしよう ●切り返し系の技にチャレンジ ●回転系の技にチャレンジ		○課題解決のために自己や仲間の考えたことを仲間に伝えている	
7	◎見せたい技を披露しよう。 ●完成度を高める練習 ●自分が披露したい技を動画で撮影して提出する	○自己の能力に適した切り返し系の基本的な技を安定して行うことができる。		○跳び箱の準備や片付けなどで、役割を果たそうとしている。

9 単元指導計画

大浜小 5・6年		器械運動「跳び箱運動」単元指導計画(案)						体育館
単 元 目 標	知識及び技能	色々な技の行い方を理解することができるようにする。自分の力に合った発展技をすることができるようにする。						
	思考力、判断力、表現力等	自分の課題を見つけ、解決のために自分に合った場を選ぶことができるようにする。 課題解決のために考えたことや動きのコツを伝え合うことができるようにする。						
	学びに向かう力、人間性等	積極的に学習に取り組み、順番を守り準備や片付けをし、安全に気を付けることができるようにする。 仲良く励まし合い、他者の考えを認めることができるようにする。						
	時間	1	2	3	4※本時	5	6	7
学 習 の 流 れ	0	1. 整列・あいさつ 2. 準備運動 3. めあての確認						
	5	【めあて】 単元の目標と学習の流れを確認しよう。	【めあて】 開脚とび系の技にチャレンジしよう。	【めあて】 かかえこみ系の技にチャレンジしよう	【めあて】 台上前転系の技にチャレンジしてみよう	【めあて】 難しい技(首はね系)にチャレンジしよう。	【めあて】 自分に合った技(発展技)にチャレンジしよう	【めあて】 見せたい技を披露しよう。
	20	4 オリエンテーション ・学習の進め方 ・1時間の流れ ・場づくり ・約束 ・片付け	★基礎感覚運動…☆フープインステップ、☆トントン腰あげ、☆とび乗り・とびおり、☆またぎ越し、☆壁うさぎ跳び、☆うさぎとび(足開きうさぎも)うさぎ跳び、かえる倒立、手押し車、馬跳び、ゆりかご、					
	45	5 基礎感覚運動 目的意識を持たせる ・馬跳び ・うさぎとび ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び ・トントン腰上げ ・またぎ越し ・フープインステップ	4. 活動① 開脚とび系の技のポイントを整理し、自分に合った場や技にチャレンジする。 ①とびのり・とびおり ②またぎ越し ③1段→3段で開脚跳び ④舞台から開脚跳び ⑤補助開脚跳び	4. 活動① かかえこみ系の技のポイントを整理し、自分に合った場や技にチャレンジする。 ※かかえこみ跳びでは調節箱を2つ程度入れる ①マット3枚うさぎとび ②跳び箱1段でうさぎ跳び ③1段→3段でかかえこみ跳び ④跳び箱2台の間を跳ぶ	4. 活動① 台上前転系の技のポイントを整理し、自分に合った場や技にチャレンジする。 ①マット3～5枚で前転 ②跳び箱の上で前転 ③1段→3段で台上前転 ④舞台から台上前転 ⑤補助台上前転	4. 活動① 難しい技(首はね系)のポイントを整理し、自分に合った場や技にチャレンジする。 ※練習の場をつくる ①伸膝台上前転 ②マット5枚で首はね跳び ③2段→4段で首はね跳び ④舞台から首はね跳び	4. 活動① 自分に合った技(発展技)を選び、課題解決の方法を考えることができるようにする。 ※練習の場をつくる	4. 活動① 自分に合った技(発展技)を選び、技の完成度を高める。 ※工夫したことや努力したことを伝えて技を披露することを確認して、自分の学びを振り返らせる。
		5. きらりタイム…友だちやチームの動き等から、うまくできるコツや友だちの良い点等を全体で確認する。						
		6 基本の技にチャレンジしてみよう 場を確認しながら、いろいろな技にチャレンジする。 ・開脚跳び ・かかえこみ跳び ・台上前転	6. 活動② 自分に合った技(発展技)にチャレンジすることができる。 ・開脚伸身跳び ①開脚跳び手たたき ②玉に触れずに開脚跳び ③調節箱2つおき開脚跳び ④②と③の合わせ	6. 活動② 自分に合った技(発展技)にチャレンジすることができる。 ・屈伸跳び ※かかえこみとびと同様な場を、膝を伸ばして行う。	6. 活動② 自分に合った技(発展技)にチャレンジすることができる。 ・伸膝台上前転 ※台上前転と同様な場で、膝を伸ばして行う。	6. 活動② 自分に合った技(発展技)にチャレンジすることができる。 ・頭はね跳び ※首はねとびと同様の場で行う。 ・前方倒立回転跳び ・側方倒立回転跳び	6. 活動② 自分に合った技(発展技)を選び、課題解決の方法を考えることができるようにする。	6. 活動② 自分に合った技(発展技)を選び、課題解決の方法を考えることができるようにする。 ※子ども達の伸びやがんばりを価値づけるようにする。
		☆7. ふり返り(できるようになったこと、むずかしかったこと、楽しかったこと、友だちの良い所、次がんばりたいこと等。必要に応じて実技と結びつけて発表させる)						
規 評 準 価	知・技		○		○			◎
	思 判 表			○		○	◎	
	主 体 的	○			○			◎

10 本時の学習

(1) 目標 (4/7時間目)

- ・自己の能力に適した回転系の基本的な技を安定して行うことができる。【知識及び技能】
- ・約束を守り、安全に気をつけている。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

	主な学習活動	指導上の留意点(○) 評価【 】
導 入	1 準備運動(3分) 2 基礎感覚運動(5分) 3 めあての確認 (1分) 台上前転にチャレンジしよう	○音楽に合わせて準備運動で心も体もリラックスしてスタートできるようにする。 ○児童の実態に応じて基礎感覚運動は工夫を入れる ○オリエンテーションpp「こんなことができるといいな」から今日の学びを確認する。
展 開	4 活動① パワーアップタイム (12分) (1) 台上前転のポイントを整理してチャレンジしよう ・踏み切りはバーンと ・着手は跳び箱の手前に ・頭の後頭部をつけること ・着地は3秒キープ 5 キラリタイム(5分) 数名の児童を見本にうまくできるコツや友達の良い点を全体で確認する。 (1) きらりポイントをもとに、見つけた技のポイントやコツをグループで整理する。 6 活動② チャレンジタイム(13分) (1) 自分にあった技(発展技)にチャレンジしよう。 ・伸膝台上前転 ・首はね跳び ・頭はねとび 【学び合いタイム】 ※同じ技にチャレンジしている児童同士でタブレットを活用して、お互いに動画を撮影する。	○苦手な児童を中心に観察し、必要であればサポートする。 ○自分に合った場を選択できるようにする。 ○台上前転のポイントを押さえてチャレンジしている児童を数名紹介し、技のポイントを整理する。 ○児童の良い動きをしていた子や、体育が苦手な児童などを紹介する。 【主体的に学習に取り組む態度】約束を守り、安全に気をつけている。(観察) ○撮影した動画を基に、見本動画と比較したり、自分の課題が改善できているかなどに活用する。 【知識・技能】自己の能力に適した回転系の基本的な技を安定して行うことができる。(観察・学習カード)
終 末	7 振り返り(6分) 学習カードに見つけた技のポイントを記入する。	○タブレットを活用してふりかえりを行う。 ・今日のめあてを達成できたか。 ・どのようなポイントを見るけることができたか

11 参考文献

- (1) 文部科学省 平成 29 年 7 月 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 体育編 東洋館出版
- (2) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育施策研究所
- (3) 学習指導要領準拠「体育の学習」 光文書院
- (4) 白旗和也 これだけ知っておきたい「体育授業の基本」の基本 東洋館出版社
- (5) 白旗和也 『7 日間で授業のつくり方をマスター！体育指導入門』 明治図書出版株式会社
- (6) 高田彬成『確かな学習状況を見取る小学校体育の評価基準づくり』 大修館書店